

令和2年度(2020年度)

管理事業名	歴史文化まちづくりセンター事業				総合計画の体系	大綱 7 政策 2 施策 1	都市魅力文化・スポーツに親しめるまちづくり 文化の振興
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 24	歴史文化まちづくりセンター費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室				
予算大事業名	歴史文化まちづくりセンター事業						
事業の目的と概要		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
<p><b>【目的】</b> 吹田の歴史と文化のまちづくりに関わる市民相互の交流と連携の促進を図り、地域に息づく歴史及び文化を保存し、発展させることにより、まちに個性、魅力及び潤いをもたらす、地域社会の発展に寄与することを目的としています。</p> <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史文化まちづくりセンターの施設管理運営</li> <li>市民や団体への貸館業務</li> <li>施設の特性を活かした文化教養講座や季節行事、伝統芸能行事等の事業を実施</li> </ul>							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
貸館利用者・見学者・事業参加者数	人	26,408	25,575	6,672	貸館利用者・見学者・事業参加者数の合計
催事開催数 (市主催・自主事業)	事業数 実施数	37 63	38 58	22 30	市主催及び指定管理者による自主事業イベント等開催数の合計
成果の説明	<p>・例年、貸館利用者・見学者・事業参加者数を合わせ20,000人以上の利用がありますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館や事業中止等の対応を行ったため、貸館利用者・見学者・事業参加者数ともに減少しました。</p> <p>・参加人数の制限やオンライン講座、動画配信等、感染症拡大防止対策を徹底し、古民家という施設の特性を活かしたイベント等の事業を実施しました。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
<b>使用料及び手数料</b>	<b>1,143</b>	<b>781</b>	<b>781</b>	<b>△0</b>
経常収入				
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	75	84	22	△62
経常収入 小計(a)	1,218	865	803	△62
経常費用				
給与関係費	5,069	5,360	5,257	△103
<b>物件費</b>	<b>23,747</b>	<b>24,343</b>	<b>23,927</b>	<b>△416</b>
維持補修費	3,732	649	-	△649
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	3,000	2,571	2,628	57
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	6,530	6,066	6,066	-
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	457	461	460	△1
退職手当引当金繰入額	1,072	112	203	91
支払利息	-	0	0	0
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	43,607	39,562	38,541	△1,021
経常収支差額(c)=(a)-(b)	△42,389	△38,696	△37,738	959
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用				
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別費用 特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△42,389	△38,696	△37,738	959
一般財源充当額	31,893	32,921	32,246	△675
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△10,495	△5,776	△5,492	284

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	歴史文化まちづくりセンター使用料781千円 新型コロナウイルス感染症の影響により前年度に引き続き減
物件費	新型コロナウイルス感染症の影響による歴史と文化のまちづくり活動推進事業委託料470千円の減

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	1,218	865	803	△62
<b>行政サービス活動支出</b>	<b>36,412</b>	<b>33,786</b>	<b>32,682</b>	<b>△1,104</b>
行政サービス活動収支差額	△35,193	△32,921	△31,879	1,042
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-
財務活動収入	3,300	-	-	-
財務活動支出	-	-	367	367
財務活動収支差額	3,300	-	△367	△367
収支差額 合計	△31,893	△32,921	△32,246	675
一般財源充当額	31,893	32,921	32,246	△675
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	行政サービス活動支出: 指定管理委託料23,395千円ほか

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
施設利用者1人あたりのコスト	平成30年度	26,408 人	1,651 円	歴史文化まちづくりセンター利用者1人あたり5,777円のコストがかかっています。新型コロナウイルス感染症の影響で利用人数が大幅に減少したため、1人あたりのコストが大幅に増加しています。
	令和元年度	25,575 人	1,547 円	
	令和2年度	6,672 人	5,777 円	
	平成30年度		円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	828	827	△1
未収金	-	-	-	地方債	367	367	△0
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	461	460	△1
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	752,511	746,445	△6,066	固定負債	7,292	6,719	△573
有形固定資産	673,923	673,923	-	地方債	2,933	2,567	△367
土地	78,589	72,523	△6,066	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	退職手当引当金	4,359	4,153	△206
リース資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
無形固定資産	-	-	-	負債の部合計	8,120	7,546	△574
インフラ資産	-	-	-	純資産	744,391	738,899	△5,492
有形固定資産	-	-	-	重要物品	-	-	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	-	-	-
重要物品	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	-	-	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	752,511	746,445	△6,066
基金	-	-	-	負債及び純資産の部合計	752,511	746,445	△6,066
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				

Ⅲ 財務構造分析

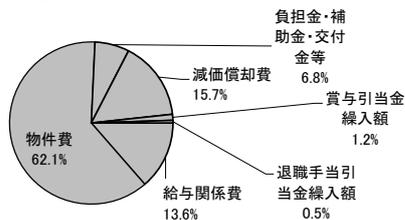
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用		会計年度任用等		特別職非常勤		合計(千円)
	月平均	人	年間従事延日数	日	年間従事延日数	日	
	0.7	人			9	日	5,919
給与関係費等	5,844	千円			76	千円	
内、時間外勤務手当	178	千円					

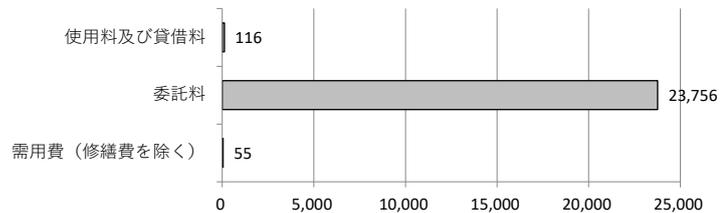
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	歴史文化まちづくりセンター減価償却による6,066千円の減
地方債	償還払いによる376千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田歴史文化まちづくりセンター
取得年月日	平成15年(2003年)6月(供用開始)
建物・工作物の取得価額	264,550 千円
建物・工作物の減価償却累計額	192,027 千円
利用料金収入	781 千円

▽分析指標

分析指標	年度	令和2年度 (単位:%)			差 B-A
		平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	
施設維持補修費比率		1.4	0.2	-	△ 0.2
施設老朽化比率		68.0	70.3	72.6	2.3
受益者負担比率		2.6	2.0	2.0	0.0
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		87.6	97.4	97.6	0.2
経常費用対公共資産比率		16.5	15.0	14.6	△ 0.4

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

- 物件費がコスト全体の62.1%を占め、そのうち施設管理に係る委託料が99.3%を占めています。
- 減価償却費がコスト全体の15.7%を占めています。
- 経常費用のうち60.7%は歴史文化まちづくりセンター指定管理委託料です。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

施設老朽化比率は72.6%となっており、もともとが古民家を改修した施設のため、施設の維持補修費の増大が今後も予測されます。また、新型コロナウイルス感染症の影響による施設利用人数の減少で、1人あたりのコストが大幅に増加しています。しかし、本市の歴史と文化のまちづくりに対する施設の果たす役割は大きいいため、今後も新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を図りつつ、継続可能な事業のあり方を検討し、指定管理者と一層の連携に努め、市民満足度の高い施設運営を行うことが必要です。